

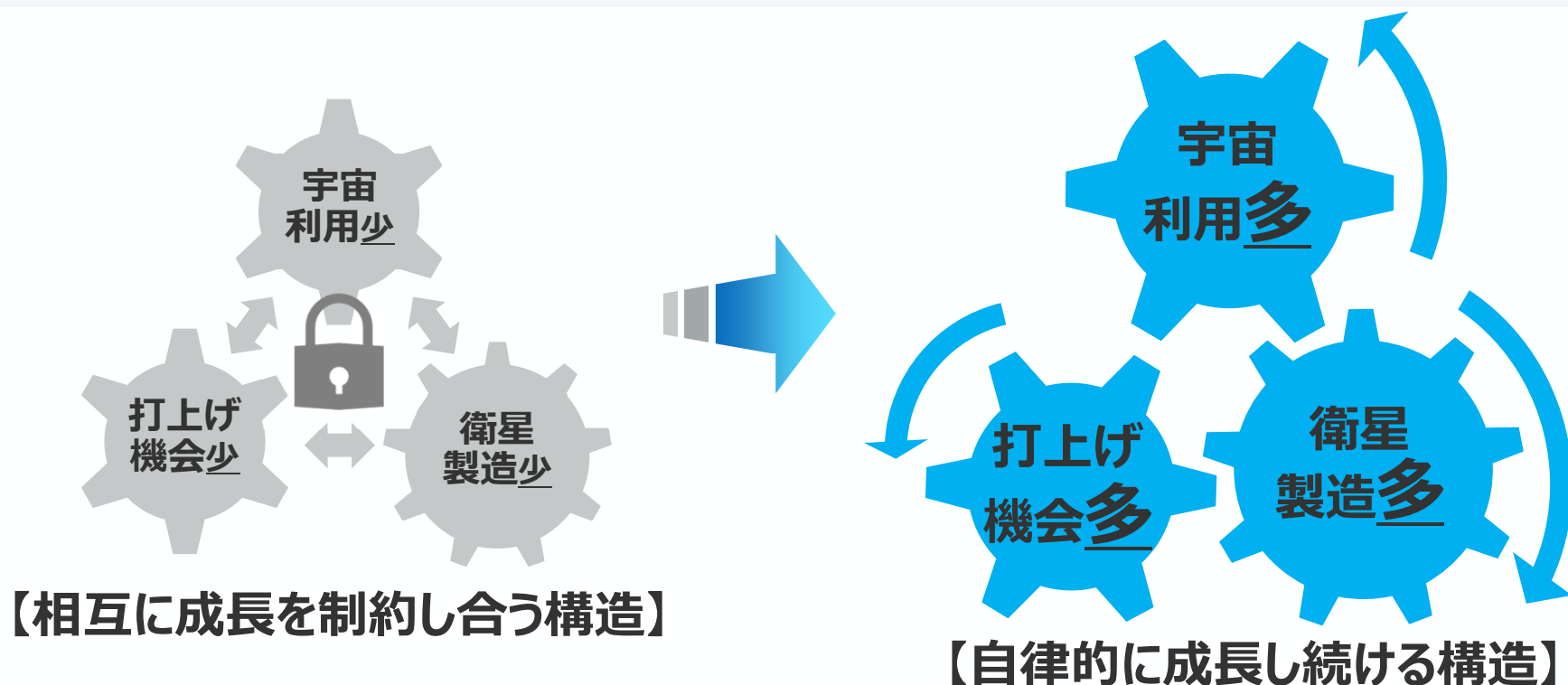
経済産業省の宇宙関係予算について (令和8年度予算案・令和7年度補正予算)

令和8年1月

製造産業局 宇宙産業課

経済産業省の宇宙産業政策の方向性

1. 日本の宇宙産業が国際競争力を持ち持続的に成長するためには、現状の宇宙利用・衛星製造・打上げ機会が相互に成長を制約し合う構造を打破し、技術を成長のサイクルへとつなげていく必要がある。
2. 宇宙戦略基金や経済安全保障基金などの経済施策を一体的に講じ、衛星の量産やロケット高頻度打上げを可能とする強靱なサプライチェーンを備えた自律的に成長し続ける産業構造を目指す。



1. 令和8年度予算案について

- **衛星データを利用した新たなビジネスの開発等に対する支援 2.0億円**

衛星データを利用した新たなビジネスの創出を促進するため、ハイパースペクトルセンサHISUIのデータをはじめとする多様な衛星データを処理し、プラットフォームに搭載することにより、衛星データ利用環境整備を行う。



**衛星データを利用した社会課題の
解決につながるビジネスを促進**

<参考> 宇宙関連予算（令和8年度予算案）

- **無人自動運転技術の開発等の衛星データを活用した各種実証事業 23.1億円**

無人航空機、自動走行車における準天頂衛星システム等を活用した運行管理・安全技術等の開発・実証を行う。

- **次世代電池（全固体電池等）の研究開発 18.5億円**

宇宙利用が期待されている全固体電池やリチウムイオン電池等の次世代電池技術の研究開発を行う。

- **次世代素材技術（CFRP等）の研究開発 9.8億円**

ロケットや衛星での活用が期待されるCFRPの軽量化技術・接合技術等、宇宙利用可能な次世代素材技術等の研究開発を行う。

2. 令和7年度補正予算について

● 宇宙戦略基金事業 740億円

- 産業構造の改革・強化を目指したスタートアップ含む民間企業等に対する技術開発・実証、商業化等の支援を強化。
- 令和5年度補正予算では、国民の生活や産業を支え、安全保障にも寄与する重要な基盤となる衛星コンステレーションの早期構築に向けて取り組み、令和6年度補正予算では、衛星コンステレーションの構築を支える衛星データ等の周辺産業の強化に向けて取り組んでいる。
- 国際競争に劣後し自律性を損なわないよう、民間ベースでの国際競争が激化する打上げサービスや、国際的なルールメイキングが加速する宇宙交通管理等の衛星コンステレーションを取り巻く産業に取り組む必要がある。

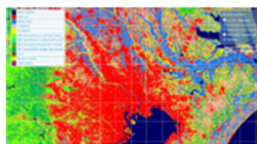
これまでに着手した主な技術開発（R5補正1260億円、R6補正1000億円）

国民の生活や産業を支え、安全保障にも寄与する重要な基盤となる「衛星コンステレーション」の早期構築および試験課題解決、部品コンポーネントの強化（衛星分野）、国際競争が激化する「衛星データ利用システム」の競争力強化（衛星データ分野）に取り組んでいる。

また、これらの取組を支える打上能力の高頻度化にむけて、まずは「ロケットのサプライチェーン」の強化（輸送分野）にも着手。



衛星コンステレーションについて、一定地域でのサービス展開が可能な基盤配備の実現



国際競争力のある衛星データを利用したソリューションの開発・実証

目標達成に必要な新たな取組

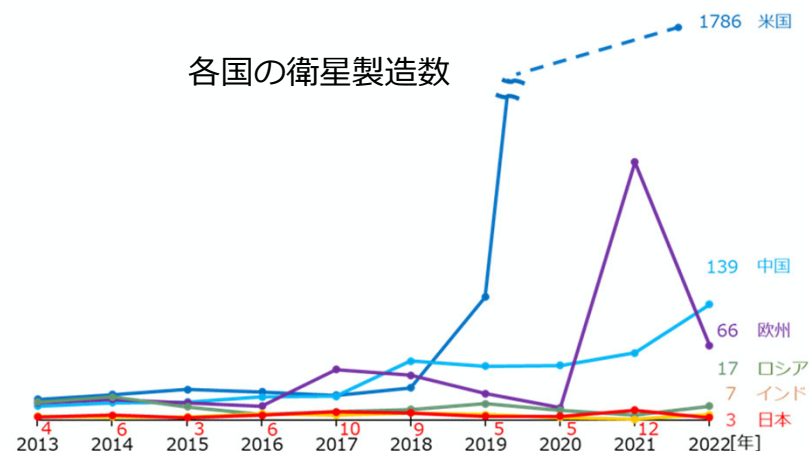
民間ベースでの国際競争が激化する打上げサービスや国際的なルールメイキングが加速する宇宙交通管理等の衛星コンステレーションを取り巻く産業において、投資の遅れをとると、国際競争に劣後し自律性を損ないかねない。

2. 令和7年度補正予算について

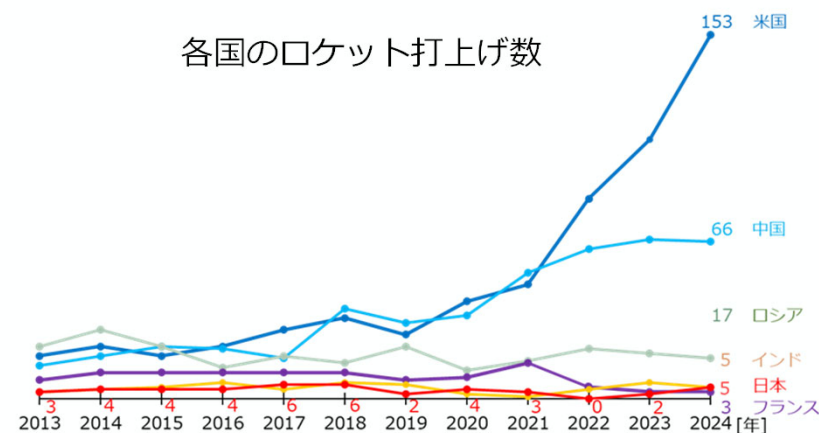
● 安定供給確保支援基金事業（人工衛星：97億円、ロケットの部品：49億円）

- 我が国ではこれまで、自律的な宇宙インフラ構築に向け、政府衛星の継続的な製造や宇宙戦略基金による大規模な技術実証等を推進。
- 世界的な人工衛星の打上げ需要の増加しており、我が国においても衛星・打上げ需要が増加。しかし、我が国は人工衛星・ロケットの主要部品の一部を海外に供給を依存している。各国が自国への供給を優先する結果、途絶リスクが顕在化。
- 人工衛星及びロケットの主要部品について、国内需要に対応する供給能力を確保するための取組が必要。

宇宙産業における国際競争



出所：一般社団法人 日本航空宇宙工業会「R4年度宇宙産業データブック」を基に経済産業省にて作成
※キューブサット以下の大きさを除いた、20kg程度以上のサイズの衛星を集計。



出所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局調べ（打上げ成功のみカウント）を基に経済産業省にて作成

(参考) 経済産業省における宇宙関係予算

事業概要	令和8年度予算案	令和7年度補正予算案
1. 宇宙予算	2.0億円	886億円
衛星データを利用した新たなビジネスの開発等に対する支援	2.0億円	
宇宙戦略基金事業		740億円
安定供給確保支援基金事業		146億円
2. 宇宙関係予算	51.4億円	
無人自動運転技術の開発等の衛星データを活用した各種実証事業	23.1億円	
次世代電池(全固体電池等)の研究開発	18.5億円	
次世代素材技術(CFRP等)の研究開発	9.8億円	
合 計	53.4億円 + 886億円	

● 既存基金事業にて実施している事業

過年度の予算にて措置している以下のとおり事業を実施中。

◆ 経済安全保障重要技術育成プログラム（令和3年度補正予算・経産省計上分1,250億円の内数）

- ・ 光通信等の衛星コンステレーション基盤技術の開発・実証（600億円）
- ・ 船舶向け通信衛星コンステレーションによる海洋状況把握技術の開発・実証（147億円）
- ・ 高感度小型多波長赤外線センサ技術の開発（50億円）

◆ 中小企業イノベーション創出推進事業（令和4年度第2次補正予算・経産省分542.4億円の内数）

- ・ 月面ランダーの開発・運用実証（147億円）
- ・ 衛星リモートセンシングビジネス高度化実証（120億円）

ほかにも、**宇宙開発利用推進費**にて、宇宙太陽光や月面のエネルギー関係の支援事業を内閣府とともに実施していく。